

家庭との連携を図ったキャリア教育の推進
 - 保護者会のもち方を工夫して -

研究企画係

丹羽 章夫 (小学校教諭)
 茂木 聡 (中学校教諭)
 高橋 博 (中学校教諭)

I 主題設定の理由

キャリア教育は文部科学省のみでなく、様々な省庁が協同し国全体で進められている。厚生労働省は「平成21年版労働経済の分析（労働経済白書）」において、平成20年度のフリーターが170万人、ニートと呼ばれる若者が64万人であると発表した。このように数多くのフリーターやニートが生まれる原因として、勤労観・職業観の未熟さや職業人としての基礎的資質・能力の低下などが指摘されている。これらの課題を解決するため、学校教育においてキャリア教育が推進されるようになった。

平成18年11月文部科学省は各学校等でキャリア教育を一層推進・充実し、児童生徒一人一人の社会人・職業人としての自立を図るために、「キャリア教育推進の手引」を作成した。この手引の「家庭、地域、関係諸機関との連携・協力」の中で、子ども達の人格形成や心身の発達には、家庭教育のあり方や働くことに関する保護者の考え方が大きく影響するため、キャリア教育について保護者の理解や協力を得ることへの重要性が述べられている。具体的には授業参観や保護者会、学校だよりなどの活用があげられている。

平成18年度の群馬県総合教育センターの調査によれば、多くの教職員がキャリア教育を学校・家庭・地域社会が協力して推進すべきであると考えている。

そこで、キャリア教育に関する情報を発信し、保護者会のもち方を工夫することを研究することにより、家庭との連携を図ったキャリア教育を推進できると考え本主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

1 ねらい

学校だよりや学年だより（以下「たより」）、保護者会のもち方の工夫を通して、小学校・中学校でのキャリア教育に関する家庭との連携の在り方を実践的に研究する。

2 課題解決策

(1) 全体構想の立案

図1のようにキャリア教育が目標とする「社会人、職業人として一人一人の生徒が自立すること」を実現するために、学校と家庭が共通の視点を持ちキャリア教育の充実に向け連携することが重要であり、そのために、保護者会やたよりの活用が有効であると考えた。



図1 基本構想図

(2) 具体的方策

- ・保護者にキャリア教育に対する関心や知識をもってもらうために、たよりで、「キャリア教育の必要性」や「学校で行っているキャリア教育」の情報を伝える。
- ・保護者に「キャリア教育の重要性」と「学校と家庭の連携した指導の必要性」を理解してもらうとともに、学校と家庭が共通の視点のもとキャリア教育の充実に向けて取り組めることを考える保護者同士の話し合い活動を取り入れた保護者会を工夫し実践する。
- ・保護者会で学んだキャリア教育に関する知識の定着と、保護者同士の話し合いの中で出された各家庭で取り組めるキャリア教育の実践について、たよりを活用して各家庭に伝え、情報の共有を図る。

(3) 検証方法

- ・保護者会終了時に、保護者にアンケート調査を行い、キャリア教育に関するたよりの有効性を明らかにする。
- ・保護者会後は追跡調査として、生徒と保護者にアンケート調査を行い、家庭での実践状況をつかみ、本取組の有効性を明らかにする。

III 課題解決のための具体的実践

1 キャリア教育に関する情報を伝えるための「たより」の発行について

たよりは、保護者にとって自分の子供がどんな学校生活を送っているか、学校がどんな教育活動を行っているかを知る手段の一つとして関心が高い。また、学校側から広く情報を発信する有効な手段である。

そこで、たよりにキャリア教育に関する情報を「コラム」や「特集」の形式で掲載した。内容はキャリア教育の根底である自己理解の状況を親子でチェックできる資料、ニートやフリーターなどの実情の説明、望ましい職業観・勤労観をもつことの重要性、キャリア教育が育成したい四つの能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意志決定能力）、家庭ができる取組などを取り上げた。このことを通して、家庭にキャリア教育に関する情報が正確に伝わることを目指した。

2 キャリア教育の理解を深めるための保護者会の活用について

| | | | |
|---|---|-----------------------------------|---------------|
| プログラム名 | 家庭で行うキャリア教育 | | |
| ねらい | 保護者がキャリア教育について知り、家庭で協力・実践できるキャリア教育の内容を知る。 | | |
| 学校 | | | |
| 対象クラス | | | |
| 場所 | | | |
| プログラムの展開計画 | | | |
| 回 | 活動テーマ | 活動内容 | 活動方法 |
| 1 | キャリア教育について | キャリア教育の意義を知り、家庭でできる内容を小グループで話し合う。 | 講義 グループワーク |
| 準備する物 | | 活動形態図 | 正面 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料 ・実物投影機 ・プロジェクター ・付箋紙 ・スクリーン ・コンピュータ ・椅子 ・鉛筆 ・マイク ・画紙 ・アンケート用紙 | | | |
| 活動の流れ | | | |
| キャリア教育とは・・・話を聞く。 | | | |
| 家庭でできるキャリア教育・・・小グループで、家庭でできるキャリア教育について話し合う。 | | | |
| 振り返ってみよう・・・アンケート用紙に記入する。 | | | |

| 流れ | 時間 | 活動内容 | 留意点 |
|---------|----|--|--|
| 中心となる活動 | 20 | 1 プレゼン資料を用いて、キャリア教育について説明する。 ・ニート・フリーター、もろ三現象の現状 ・時代背景 ・キャリア教育の必要性 ・キャリア教育の内容（学校では） ・「基本的な生活習慣」「学力」「勤労観・職業観」「将来の自分」について 2 家庭でできるキャリア教育について話し合う。 ・自分の考えを付箋紙に書いてワークシートに貼る。 ・グループの代表者が、意見をまとめて発表する。 | ○保護者が難しめやすい話題から話すようにする。 ○5～6人程度の小グループで話しあうようにする。 ○学校で行っているキャリア教育に準じて考えてもらうようにする。 ○意見を言う時は、マイク代わりの物を持って話すようにさせる。 ○付箋紙の貼ってあるワークシートを実物投影機で映し出しながら、説明するようにさせる。 |
| | 10 | 3 プレゼン資料で、家庭で行ってほしいキャリア教育について説明する。 4 アンケートに感想や必要事項を記入する。 | ○保護者の意見を取り入れながら説明するようにする。 ・基本的な生活習慣について ・学力について ・仕事について ・将来について ○保護者に負担がからないようにアンケートの内容(例)ア、参考になることがありましたか。 ・楽しく参加できましたか。 ・また、懇話会に参加したいですか。 ・家庭でもキャリア教育をしたいと思いませんか。 ・このような形式の懇話会は参加しやすかったですか。 |

図2 保護者会全体計画

(1) 保護者会全体計画

保護者会全体計画は、多くの人に活用してもらうため、図2のように1枚のシートにまとめた。保護者会は大きく分けて次の三つの過程からなる。

① キャリア教育についての説明

プレゼンテーションソフトを用いて、キャリア教育の必要性和学校での取組について説明する。

② 保護者の話し合い

①で提示した話題について少人数班に分かれて話し合いを行う。保護者は、自分の考える「家庭でできるキャリア教育への取組」を付箋紙に自由に書き、その内容を班員に提案することで、話し合いに必ず参加する状況をつくる。

③ まとめ

話し合いの結果を班の代表者が発表する。その発表をもとにまとめ、情報の共有化を図る。

(2) 説明資料

キャリア教育の目的や内容が保護者にとって分かりやすくなるように次のことを工夫した説明資料をプレゼンテーションソフトを用いて作成した。

- ・小中学校の全学年で使えるものにする。
- ・短時間で説明が終わること。
- ・キャリア教育が生まれた背景や内容等を分かりやすくすること。
- ・専門用語の使用を避けること。
- ・学校で行うキャリア教育と家庭で行うキャリア教育の関連を分かりやすくすること。

例えば、図3のように解決策を併記することにより、家庭でできるキャリア教育の取組について理解しやすくなった。

| 学校では 「勤労観職業観」 | 家庭では 「しごと」 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・職業調べ →どんな仕事があるか ・職場体験学習 →働くってどういうこと ・自己理解 →「私」ってどんな人 ・適正 →自分はどんな仕事に向いている | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内での自分の仕事(役割) ・親の働く姿を見せること ・地域行事への参加 ・ボランティア活動への参加 ・友人や大人と自分との関係の理解 ・役に立つうれしさ |

図3 学校と家庭でのキャリア教育

(3) 保護者会配付資料

キャリア教育に関する保護者の理解を促し、キャリア教育が家庭でも実践されるきっかけとなるために配付資料を作成した。内容はキャリア教育が進められている背景や必要性、学校での取組、家庭でできることなどを次の5点にまとめた。

① 「親や教師の願い」

キャリア教育のねらいを「子供が将来社会に出て幸せに生きていけるように、今何をすればよいかを見極め実行する教育であること」として分かりやすいものにした。

② 「キャリア教育が必要とされる背景」

ニートやフリーター、離職率などの現状からキャリア教育の必要性についてふれ、問題意識を高めた。

③ 「キャリア教育を通して学ぶことは何か」

基本的な生活習慣を「くらし」、学力を「まなび」、勤労観・職業観を「しごと」、夢・人生を「夢」として紹介し、家庭生活と関係づけしやすくなしながらキャリア教育を通して学ぶべきことを紹介した。

④ 「学校では何を学んでいるか」

家庭生活に則し、「くらし」ではあいさつや時間を守るなど、「まなび」では読む力や発表する力など、「しごと」では中学校における職業体験学習や高校一日体験など、「夢」

では、将来の社会生活での幸せなどの例を用いて説明した。

⑤ 「家庭でできること」

保護者同士の話し合いでは、自由な意見や考えを出し易いように、資料は空欄にしておく。話し合いの後で、「食事を一緒にする」や「ノーゲームデイ」などの例を示し、保護者会で出た意見などは後に発行するたよりに整理して掲載することとした。

3 保護者会後の家庭との連携について

保護者会で話し合われた内容やアンケートの集計、次学年につながる進路情報などをその後のたよりに掲載して、情報を共有し家庭と連携を図る。

IV アンケート結果と考察

1 保護者会終了時アンケートより

実施校3校において保護者会終了直後に振り返りの場面を設定しアンケート調査を行った。アンケート回収率は94.8%であった。

(1) たよりに関して

たよりを必ず見ると回答した保護者が74.1%、ときどき見ると答えた保護者が25.9%であった。また、たよりに掲載した「コラム」や「特集」がこどもの将来を考える上でとても参考になったと答えた保護者が48.1%、少し参考になったと答えた保護者が51.9%であった。参加した保護者に対してはキャリア教育に関心をもってもらう上でたよりの有効性が高いことが分かる。

(2) 家庭と連携したキャリア教育

保護者会に参加することにより、学校で行っているキャリア教育の内容について、96.3%の保護者に理解してもらうことができた。またキャリア教育の必要性は100%の保護者に理解してもらうことができた。また、家庭で実践できる取組のヒントを100%の保護者が得ることができたと答えている。これらの結果から学校で行っているキャリア教育の内容や、家庭と連携しキャリア教育を実践していくことの必要性について理解してもらうことができたと考える。

(3) 保護者会のもち方

話し合いを取り入れた保護者会を「よい」と思った保護者が98.2%いた。その理由として「各家庭のルールの違いが分かり今後の課題が話せた。」「他の家庭の様子が聞け参考になった。」などの意見が多かった。保護者会で話し合いを取り入れることの有効性が明らかになった。

実施時間は各校の行事に合わせて設定した。70分間でプログラムを実施した場合は92.6%、45分間で実施した場合は89.3%、35分間で実施した場合は35.0%の保護者が適切であると答えた。このプログラムを実施するには一定以上の時間が必要であることが分かった。

2 追跡調査より

(1) 保護者向け追跡調査

保護者会から一週間後、家庭での取組について、保護者会で話し合われた「家庭でできるキャリア教育への取組」を基に、13項目のアンケート調査を行った。結果は図4の通りである。

アンケート回収率は59.4%で、アンケート回答者のうち保護者会への参加者の割合が60.6%、不参加者の割合が39.4%であった。

ほとんどの項目で参加者の家庭で話し合ったり実践したりした割合が、保護者会に参加しなかった家庭の値を上回っている。それらの中で両者の差が最も大きかったのが「夢についての

話し合い」の29.7%、次に「家での約束を作る」の21.2%であった。夢に関して保護者会ではあまり話し合われなかったが、保護者会に参加することで、子どもの将来について家庭で話し合うきっかけになったのではないかと考えられる。

保護者会后、上記の13項目中、「実践している項目がいくつあるか」という問いに対する回答で、一人あたりの平均は、参加者5.2個、不参加者3.6個となった。参加者の方が多くの項目で話し合いなどを行っていることから、保護者会に参加することが家庭でのキャリア教育への関心を高めていくために有効であることが分かる。

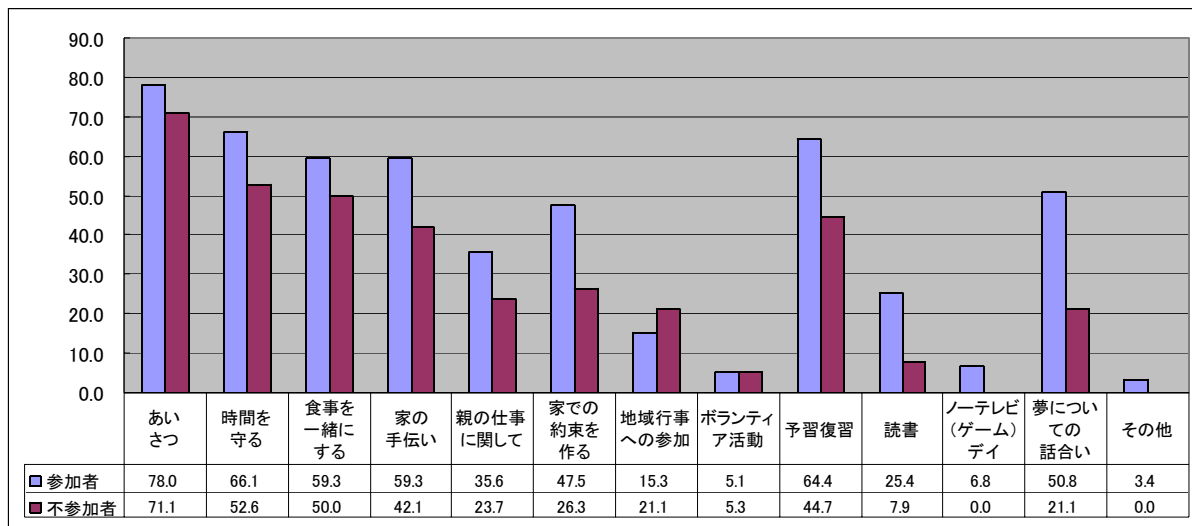


図4 保護者アンケート結果

(2) 児童・生徒向けアンケートより

保護者会実施10日後に児童・生徒向けにアンケートを行った。結果は図5の通りである。アンケート回収率は100%で、アンケート回答者に占める保護者の参加した児童生徒の割合が55.0%、不参加者の割合が45.0%であった。アンケートの項目は保護者向けのものと同様にした。全ての項目で参加者の家庭で話し合ったり実践したりした割合のほうが上回っている。それらの中で、その差が大きかったのが「あいさつ」で27.5%「予習復習」で21.2%だった。これらのことから身近な内容から家庭での実践が行われたことが分かる。子どもの評価から見ても、保護者会が家庭で話し合いを進めていく上で有効であったことが分かる。

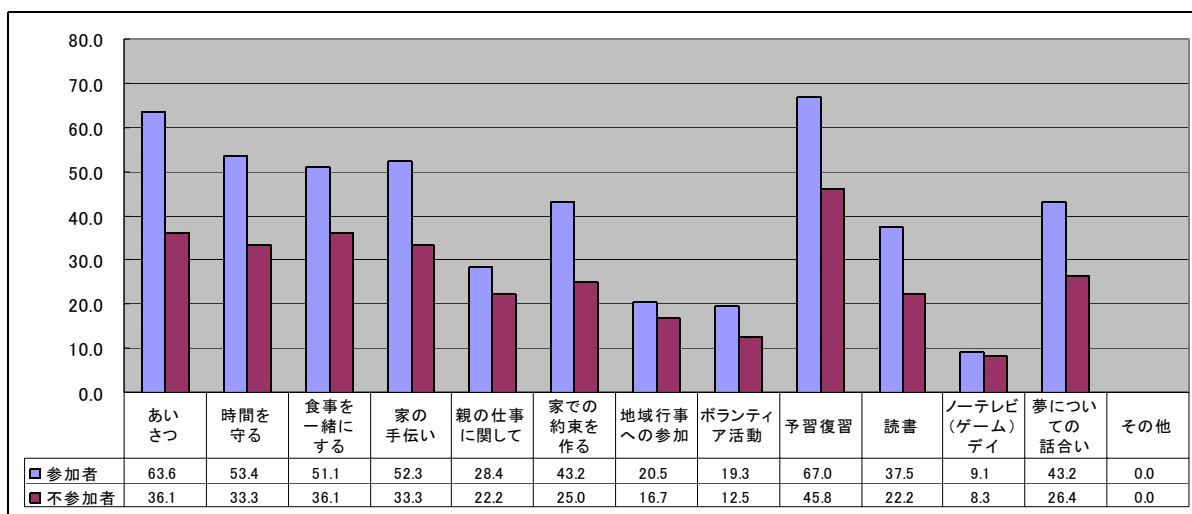


図5 児童・生徒アンケート結果

保護者会后、13項目中いくつかの項目で実践しているかの一人あたりの平均は、参加者5.4個不参加者3.4個となった。参加者の方が多くの項目で話し合いなどを行っていることから、家庭でのキャリア教育への関心が高まっていることが児童生徒向けのアンケートからも分かる。

(3) 配付資料について

保護者会后79.4%の家庭で何らかの話し合いが行われていた。保護者会に参加した家庭では92.0%、参加しなかった家庭では63.9%が家族でキャリア教育に関する話し合いがもたれた。保護者会に参加した保護者の84.2%保護者会に参加していない保護者の87.8%が保護者会配付資料を参考に家庭で話し合いを行ったと答えている。資料を全ての家庭に配付することにより話し合いへのきっかけになったことが分かる。

V 成果と課題

1 成果

(1) たよりについて

たよりで「キャリア教育の内容」や「学校で行っているキャリア教育」に関する情報を計画的に伝えることで、保護者がキャリア教育について知り、自分の子どもの将来について考えるきっかけとすることができた。

(2) 保護者との連携について

保護者会で保護者どうしの話し合い活動を取り入れ、相互の意見交換ができたことでキャリア教育についての理解が深まり、主体的に自分の子どもの将来や学習、生活等について考えたり、家庭での話し合いを進めたりする契機となった。保護者会参加者の多くにキャリア教育の必要性を理解してもらえたことから、作成したプレゼンテーション資料が、保護者にキャリア教育についての情報を伝える手段として有効であった。

(3) 職員に対する効果

たよりの配付資料に掲載されたキャリア教育に関する情報を、職員間で共有することでキャリア教育に関する共通認識が生まれ、啓発につなげることができた。

2 課題

(1) たよりについて

家庭でキャリア教育を行ってもらうためには、保護者のキャリア教育に関する意識を継続させることが大切である。そのためには、たよりに掲載するキャリア教育の内容を新しい情報のものにしたり、子どもの発達段階に合わせ興味をもって読めるものにしたりするなど改善していかなければならない。

(2) 保護者会のもち方について

保護者会でキャリア教育の啓発を毎年継続していくためには、学年別に児童・生徒の発達段階に応じたキャリア教育のプログラムを考え、プレゼンテーション資料の内容を見直したり、配付資料を工夫したりするなど、学校全体で計画的に取り組むことが必要である。

保護者会の参加人数を増やすために、保護者のニーズにあった内容を精選し、次回も参加したいと思ってもらえるようにしたり、保護者が参加しやすい実施時期や時間を設定したりするなどの工夫が必要である。